

名門高校の校風と人脈

41

甲府第一高校 (山梨県立・甲府市)

130年の歴史刻む「中伝統校」 石橋湛山から「甲州商人」まで

甲府といえば戦国武将・武田信玄の名がすぐに浮かぶが、江戸時代の中ごろからは幕府の直轄領になっていた。「藩」というものがなく、このため藩校もなかったが、江戸幕府は甲府学問所というのを寛政年間にかけている。これを淵源に1880(明治13)年に山梨県中学校が開設された。

山梨県第一中学、甲府中学など校名は何回かわったが、戦後の学制改革で男女共学の県立甲府第一高校となり130余年の歴史を刻んできた。全国にある、いわゆる「一中伝統校」の一つである。

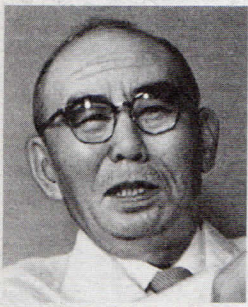
強行遠足

校是が三つある。「賛天地之化育」「出典中庸」「自然の法に遵い、人間愛に生きよ」と、「苟日新 日日新 又日新」「出典『大学』」たゆまず修養に努める)、 「Boys, be ambitious!」「出典『クラーク博士』」何事にも高い志を持って取り組み」である。

「強行遠足」という大正年間から続いている名物行事がある。毎年秋に男子は16時間、女子は9時間半、精根のかきり歩き続ける。

この学校を象徴する卒業生

は、首相を務めた石橋湛山である。旧制中学で2度も落第しているが、後年は東洋経済新報社出身のリベラルな言論人となった。大正デモクラシーにおけるオピニオンリーダーの一人であった。1946(昭和21)年に吉田内閣の蔵相に起用されたことをきっかけに政治家としても頭角を現し、56(昭和31)年に首相と



石橋湛山

なった。しかし脳梗塞を起こし、わずか65日間で首相の座を降りた。高潔な人柄で多くの国民から慕われた。俗に「山があるのに山ナシ県」といわれるが、山に囲まれているために県外に出てビジネスに精を出す人が多い。「甲州商人」という言葉があるほどだ。甲府第一高校も旧制時代から、経済界で活躍した



小林喜光

卒業生を輩出してきた。「コバチユウ」の愛称で知られる初代日本開発銀行総裁の小林中が、その筆頭である。富国徴兵保険(現富国生命)、東京急行電鉄、アラビヤ石油、日本航空など多くの企業のトップを歴任し、「財界四天王」の一人に数えられた。

27(昭和2)年に日本に初めて地下鉄を導入、建設し(東京メトロの浅草―上野間)、「地下鉄の父」といわれた早川徳次、高度成長期に三井物産のトップを務め経済同友会代表幹事をした水上達三も卒業している。

さらに、浅尾新甫(日本郵船)、野田孝(阪急百貨店)、河西力(伊藤ハム)、田尻邦夫(デサント)、小林喜光(三菱ケミカルホールディングス)、米山好映(富国生命)、古屋文明(日本出版販売)、大久保好男(日本テレビ放送網)らがいる。

この内、小林喜光は甲府第一高校から東大に進み、理学博士になった。三菱化学、三菱樹脂、三菱レイヨンの3社を率いる国内最大の化学会社三菱ケミカルHDのトップを2007年から続けている。米山、古屋、大久保の3人は

69（昭和44）年卒業の同期生で、現役経営者である。

ベンチャー経営者

新しい業態を開発し、市場を創造したベンチャー経営者を4人、紹介しよう。

辻信太郎は、「ハローキティ」などの販売で知られるサンリオを創業した。キャラクターライセンスのビジネスでは、今や世界でも有数の会社になっている。

中村和男は、甲府一高から京大薬学部に進学、大手製薬会社で医薬品開発部門のリーダーをしていた。92年に脱サラし、医薬品の新薬開発に欠かせない臨床試験を支援する会社・シミック（現シミックHD）を起し、05年に東証1部上場会社に成長させた。

坂本孝は、中古本販売のブックオフコーポレーションを創業した。「新古書店業界」という言葉もできているほどで、今や書店で売られた新刊書籍のうち冊数ベースで約3割が新古書店に持ち込まれている。出版不況の一因にもなっている、との説もある。

神山茂はソフトウェア開発会社のジャステックを創業

し、東証1部上場企業に育て上げた。独自の生産管理システムを持ち、一流企業からの受託が多い。

11年3月11日の東日本大震災後にメディアによく登場するようになった防災学者がいる。東北大学大学院教授の今村文彦で、津波工学の専門家。津波堆積物の地層調査などから、大津波の可能性を予想していた。

建築構造学者で二代目通天閣や東京タワーなど多くの鉄骨構造の電波塔、観光塔を手がけた内藤多伸、昭和時代の数学者・功力金二郎、原子物理学者の矢崎為一らも甲府中学を卒業している。

セーラームーン

文系では、開発経済学が専門で拓殖大学学長の渡辺利夫、宗教学・人類学の学者である中沢新一、日本中世史の五味文彦らがOBである。



今村文彦

小説家では、大脳生理学者で慶応大学医学部教授のかたわら推理小説を書き、直木賞を受賞した木々高太郎がいた。保阪嘉内は甲府中学から盛岡高等農林学校（現岩手大学農学部）に進学し、寄宿舎で宮沢賢治（岩手県立盛岡中学・現盛岡第一高校卒）と同室になったことから親しくな

った。賢治から寄せられた書簡73通が残されており、研究者の関心が高い。中村星湖は自然主義作家である。

俳人では、飯田蛇笏・龍太父子がそろって甲府中学で学んだ。蛇笏が甲府市で発行していた俳誌「雲母」を、龍太が継承主宰した。蛇笏は東京・旧制私立京北中学（現京北高校）に転校した。

漫画家の武内直子は、「美少女戦士セーラームーン」シリーズなどで知られる。甲府第一高校時代から漫画作品を投稿していた。映画監督では、大映絶頂期を支えた増村保



筒井真理子

造、映画・テレビの脚本を手がけた若尾徳平らが卒業生である。小林俊一は多くのテレビドラマを制作した。

洋画の米倉寿仁、日本画の望月春江、音楽では声楽家の平野忠彦、ジャズドラマーの森山威男がOBである。女優の筒井真理子と、気象予報士の岡村真美子はOGである。

スポーツ関連では、川手良萬がJリーグのヴァンフォーレ甲府の前身である甲府サッカークラブの創始者である。アーチェリー選手の恒吉恵子は、ソウルとバルセロナ五輪に出場した。

陸軍大将

政治家では、3代にわたって衆院議員になった堀内ファミリーがいる。富士急行オーナー一族で、堀内良平一雄と光雄が卒業生である。地元政治家では、家業の旅館業をしていた山本栄彦が甲府市長を11年務めたあと、山梨県知事をした。公選後の甲府市長としては山本のほか今井茂右衛門、河口親賀それに現職の宮島雅展が卒業生である。

山梨県東部の上野原市に

は、「長寿村」として有名な桐原地区がある。町制時代から長年にわたり上野原町立病院の院長をし、ターミナルケアの充実をめざしていた外科医の江口英雄は、09年から上野原市長をしている。

井上幸彦が警視總監を務め、オウム真理教事件の捜査で陣頭指揮をとった。大蔵官僚の篠原尚之は財務官を務めたあと、国際通貨基金（IMF）の副専務理事をしている。

陸軍大将で、数少ない名将として讃えられている今村均は、甲府中学から旧制新潟県立新発田中学（現新発田高校）に転校している。

山梨県の高校入試では、生徒の意思とは関係なく入学生する高校を振り分ける総合選抜制が68（昭和43）年に導入された。これにより甲府市内の高校は平準化し、甲府一高の大学入合格実績は低迷した。しかし、07年からは全県1学区となった。これを機に甲府一高の進学状況は右肩上がりに転じ、名門復活の兆しが現れている。

（猪熊建夫・ジャーナリスト）
（敬称略。会社名・肩書などは当時。次回は神奈川県立希望ヶ丘高校）